

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町野村2-109-1
自己評価作成日	平成26年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年12月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家族と利用者と共に理念に沿いながら認知症や加齢による障害を抱えても(あせらず..)自分の為に生きる、人と比べないで自分の人生を楽しむよう介護してゆきます。それが此処の職員や利用者が求め続ける生活です。ここでしか味わえない喜びや人との出会いを大切にしています。</p> <p>自然環境、人、物がどんなに素晴らしい事かを感じながら落ち着いて呼吸が出来る。動いても歩いてもこの環境と共に安楽に過ごせます。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●「8」の付く日に、ご自分が建てた祠の掃除を続けていた利用者には、ご自分で掃除することが難しくなった現在も、月に1~2回、職員が付き添い、一緒に掃除してお酒を供えられるよう支援されている。利用者は、とても安心されるようだ。地元のイベントである乙亥大相撲を楽しみにしている利用者が多く、出かけられるように支援されている。にぎわう出店を廻ったり、生中継の取組を観て、利用者は「これで今年も終わり。正月が来るな」と一つの節目として受け止めておられるようだ。</p> <p>●職員全員で利用者個々の行動の傾向を共有しており、外に出かけていく利用者の様子で「自由に過ごして頂く」「職員が同行するか」見極めている。歩く速度が速い方等もいるため、もしもの時に備えて、現在、利用者の顔写真や特徴をまとめ、警察に提出できるよう「徘徊防止情報ファイル」を順次作成中である。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つるかめ

(ユニット名) かめ

記入者(管理者)

氏名 古田 康子

評価完了日 2014 年 11 月 20 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員は理念を理解し利用者の生活支援が出来るよう、人と比べない、利用者が自ら選択し作ってゆく生活の支援の為に日々、利用者と共に技術の向上を目指して利用者と一緒に過ごす生活の場を作ってゆく。	
			(外部評価) 「選択する自由と安心できる生活を送れる」という理念を事業所全員で共有し、職員は日常支援の中で、価値観を押し付けず利用者の声を聴くことを心がけておられる。利用者が、沢山の選択肢の中から選ぶことが難しくなった場合は、小さな選択肢を提示して支援されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者は施設周辺を自由に動き近所の方とも顔なじみとなり散歩中に近所の方から野菜等の差し入れや世間話やイベントの誘いを受ける、ホテル祭りには夏の楽しみの一つです。	
			(外部評価) 地区の常会時に事業所のパンフレットを配り、サービス内容を知ってもらえるよう努めている。周囲を散歩したり、庭で歌を歌っていると、近所の方が畑の行き帰りに声を掛けてくれて、事業所の菜園を見てアドバイス等もして下さる。法人では、デイサービスの休日を利用して「認知症カフェ」を開いており、お茶を飲みながら話したり介護相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症カフェを開き相談窓口となる。ここで地域の介護相談の窓口となり徘徊等を未然に防ぎ安心して生活できる施設を目指してゆく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出た提案は職員にも伝わり実行できるものから取り掛かる。徘徊時の対応として利用者マニュアルを作成し情報機関に提供できる資料を作成している。又、公的機関からの情報などは施設内に伝達できるように取り組んでいる。	同業者との相互参加や情報交換等しながら、会議の持ち方や進め方について考えてみてはどうだろうか。会議参加者についても、少人数で固定することなく、多くのご家族や地域の方に声をかける等して、いろいろな意見が聴ける場となるよう工夫されてほしい。
			(外部評価) 会議には、利用者やご家族、民生委員等が参加されており、事業所から活動等を報告して、その後、徘徊や防災等、地域と協力し合って取り組みたい内容について話し合っている。開設から1年半が過ぎ、「あまり格式ばった会議だと意見が出にくいのではないか」「イベントで終わるのもどうか」と、管理者は会議のあり方について考えておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の関連事業担当は介護により必要な事項を的確に施設内に伝達する。新しい取り組みや利用者の支援で地域や他事業者間の連携も出来る。	
			(外部評価) 市からは、介護保険の変更、感染症や防災について等、その都度情報提供がある。市主催の研修会には職員が交代で参加し、レベルアップや情報を得る機会となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベツサイドレールの設置なども本人の希望や了解を得て設置。屋外に出たい人は危険の無い限り自由に出る事が出来る。本人の安全確保が出来れば拘束はしない介護に取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員全員で利用者個々の行動の傾向を共有しており、外に出かけていく利用者の様子で「自由に過ごして頂くか」「職員が同行するか」見極めている。歩く速度が速い方等いるため、もしもの時に備えて、現在、利用者の顔写真や特徴をまとめ、警察に提出できるよう「徘徊防止情報ファイル」を順次作成中である。ベッドからの立ち上がりに不安がある方には、滑り止めマットとセンサーで転倒防止できるよう対応されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  地区研修会や定期職員研修会で学び、日々の介護の中でも直面している利用者に対して虐待か否かを議論し合い関わる職員が意見を出し合い防止につとめている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  情報として聞いたり学ぶ事はあるが直接かかわる事ことは少ない。今後は利用者の権利擁護において利用者立場から支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入所前には関係者と会い事業所内容や契約に関する説明し納得してから入所され、入所後も利用者家族と気軽に相談できる関係作りが出来ており不安なく生活して頂くように図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  窓口には意見箱などを置いたり、面会時などに共に協力しあって行けるよう協力を依頼する。どんな些細な事でも誰にでも話し合えるよう声掛けする。  (外部評価)  利用者個々に担当職員が、毎月、利用者の近況を詳細に書き、ご家族に送付されている。ご家族来訪時には、居室や居間等を選んで過ごせるよう声かけされている。遠方に住むご家族とは、帰省時やメール等を使って情報をやり取りしている。今後、事業所便りにて、事業所のことを知ってもらえるよう、銀行や病院に置かせてもらうことを考えておられた。	管理者は、「ご家族から自由に本音の意見を言ってもらえないのではないか」と感じておられる。ご家族が事業所の運営に意見や要望を具体的に出せるような場や機会を工夫して、一緒に考えながら取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。又、ご家族同士、同じ立場での話し合いの機会も作ってみてはどうだろうか。



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 提案があれば詳しく話を聞き助言や新たな提案等を教えてもらう。利用者の事を一緒に考え、より良い介護に導いてもらう。特に利用者には自分の考えを持って行動することに支援したい。	
			(外部評価) 外部研修の案内は、職員の目につくところに貼り、受講を勧めている。受講後は内容を報告する仕組みを作っており、管理者は、全員で少しずつレベルアップしていきたいと考えておられる。職員は、研修時、嚙下と姿勢の関係について学び、利用者がむせない姿勢で食事ができるよう支援に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員の希望や家庭環境、体調を考慮しより良い職場環境を目指しておられる。本人のやる気を出す指導でやりがいも持てる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会の受講を勧め、職員のレベルアップのためには月1回の定例研修会開催でこまやかな指導や情報を学べる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会に参加し他事業者との情報交換や介護技術を学び、持ち帰って自分の職場に発表し職員の資質向上になる。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者さんとゆつくりと話を聞く時間が取れ、仕事に支障なく利用者とのコミュニケーションを大切にしている。あなたが必要なよ心配ないよ言葉や行動でサインを送り信頼関係を作りをする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族やその人を取り巻く関係者の方々と入所前から情報の提供や見学してもらい、不安の一つ一つを解消できるよう積み重ねる。職員全員が情報を共有しながら家族に接する。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者・家族の意志を最重要としニーズを達成出来るようケアしてゆく、職員には利用者の情報を把握し不安なく生活できる環境を整えてゆき、時には馴染みの道具や習慣も支援してゆく。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が落ち着いて過ごせるよう、焦らず利用者の出来ることから始め出来ない事を支援をする。ここで暮らす事の喜びを感じてもらおう支援をする。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 悩みの訴えがあれば一緒に考えて利用者にとっても家族にとっても良くなるよう努めている。利用者を支えるのは家族で有り家族のささえが利用者の此処での支えでもある事を理解してもらう。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者ゆかりの地を訪れたり、又誰でもいつでも施設の面会ができる事を伝えておく。親戚や友人等の交流も支援していく。 (外部評価) 「8」の付く日に、ご自分が建てた祠の掃除を続けていた利用者には、ご自分で掃除することが難しくなった現在も、月に1~2回、職員が付き添い、一緒に掃除してお酒を供えられるよう支援されている。利用者は、とても安心されるようだ。地元イベントである乙亥大相撲を楽しみにしている利用者も多く、出かけられるように支援されている。にぎわう出店を廻ったり、生中継の取組を観て、利用者は「これで今年も終わり。正月が来るな」と一つの節目として受け止めておられるようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い人は席は近くになるように、テーブルの配置や席の並びを変える。レベルが違っていても穏やかに互いに支え合える仲間になるよう介護支援していく。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も生活拠点に向き生活状況を聴いたり生活に必要な情報も関係者に伝える。時々家族と連絡している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 「選択する」と言う本人様の希望を一番において考えており、押し付けず選んでもらうようにしている。実現困難と思う要望は他の選択と一緒に考える。 (外部評価) 女性利用者の中には、男性職員を避ける傾向にある方がおり、ご本人の気持ちを大切にして無理に接近しないよう気を付けている。気持ちが不安定になると急に家に帰ろうとする方には、職員は常に目配りして見守っている。又、新しい利用者が入居すると、職員の気や目がそちらに向くを感じ、いつもより自分の方に注目してほしいという行動が見られるようで、職員は時間をとってじっくりと話を聴くようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人との対話の中で把握出来、引き出せるようコミュニケーションを取っている。入所前には生まれて過ごした生活環境を大切に施設の生活が継続できるよう配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝のバイタルを始め職員同志の連絡を密に取り合うようになっている。日記に記載されたプランにそうよう個人の生活支援をする。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者さん、ご家族の希望を聴いたり職員が感じる事をまとめプランの変更など行う。毎月のモニタリングで職員全員の利用者さんに対する問題点や対応の変更など検討している。	
			(外部評価)	
			計画作成担当者は、利用者の言動やご家族の希望、職員の気付いたことを基に介護計画を作成している。モニタリングは、職員全員で毎月行っており、利用者一人ひとりの支援について話し合いをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護記録には毎日の様子を記し職員間の情報交換しながら情報の共有を行う。体調や心身の変化の進行を見ながらADLの維持を支援している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			一人一人のニーズに対して少しでも達成出来るためインフォーマルな支援をも加え、既存の介護支援を学びながら取り組んでいるが、単一化にならないよう配慮する。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			施設周囲の方にお互いに呼びかけあったり、近所の店で昼食をしたり昔の近所付き合い的に安否確認をしあう。自然災害や火事の際にも救助をお願いをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的を受診したり、少しでも異変があったら受診している。希望があれば入所前のかかりつけ医で市外の病院にも定期受診や薬を取りに行く。	
			(外部評価) 月1回、協力医の往診があり、緊急時には連絡がつくようになっている。専門医と協力医との連携もとれており、投薬もそれぞれから受けている。他の受診については、宇和島市や大洲市くらいの距離であれば事業所で通院介助するが、遠方は、ご家族と相談して対応を決めている。老人保健施設から入居となった方には、継続して理学療法士が月に1度来てくれており、傾向と対策についてアドバイスがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 少しでも異変があったら看護師に連絡し適切な介護を受けている。病院等の連絡は看護師が行い情報も得られ利用者、介護者共に安心出来る関係が出来ている。家族にも情報が伝わっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院した際には家族や病院と情報交換をし良くなりしだい退院する。看護師により病状の詳細が伝えられ入退院の際の要点も細かく伝わり利用者が安心して退院できるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族等と利用者を取り巻く関係者で本人、家族の望む終末を機会がある時に意向を聞いているが直面すると考えが変わる時もある。重度化した場合の介護指針の説明と同意書も頂いている。	
			(外部評価) 終末期については、事業所から説明を行い、ご家族に希望を聞いており、現在は、10名ほどの方が事業所での看取りを希望されている。具体的には重度化してから、再度意思確認することになっている。職員に対しても、「身内の看取りを経験したことがあるか」等、アンケート調査が行われた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救助法の訓練で応急手当や初期対応の受講したり、看護師による指導を受け研修会などに参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 職員全員で消防訓練を定期的実施し、安全かつ速やかに行動が起こせるよう訓練してる。消防団活動している職員もいる。 (外部評価) 管理者は、訓練を重ねることで、いざという時、職員が慌てず行動できるようになることを目指しておられる。年2回の避難訓練の内、1回は、近所の方の協力も得て、夜間の火災想定で行われている。又、救命救急法は、年1回、利用者にも見学してもらいながら講習を行っている。車いすを使用する利用者が増えたことで、玄関には、ユニット別にスロープが設置されており、裏の段差にもスロープを設置する予定となっている。	事業所は耐震建築でもあり、地震の場合は近所の方の避難場所になる可能性も考えられる。地域との協力体制の整備や利用者の状態を踏まえて、より具体的な訓練を重ねてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人個人の居室がありプライバシーを尊重して支援している。施設開設の当初から利用者の対応法は専門研修を受けており尊敬して介護する心は継続している。 (外部評価) 管理者は、利用者を「こういう人」と決めつけて大切なサインを見逃さないよう、職員に伝えておられる。共同生活を踏まえて利用者の服装等についても、プライバシーを守るようその都度話し合いながら、ご本人が納得いくような支援に努めている。行動を共にしたいが、相手はあまり良い思いをしていない様子が見られるような時には、職員が間に入って気を逸らす等して、お互いに嫌な思いをしないような支援に努めておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望に添うよう支援しているが決めれない方は達成感や満足で笑顔の出来るよう支援する。、新たにレクリエーションのパネルを準備し遊びや学びを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理のない程度に利用者に寄り添い介護する。理念で示すように「利用者自ら選択」があり最大限に主旨に添い活用できる介護を支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時に更衣して頂き身だしなみを整えている。家族や本人の希望のある人はそのように、希望の言えないひとは日頃からの生活判断でお洒落気分が味わえるよう声掛け支援する。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何より食事を楽しみにして下さる利用者もおられる。声掛けしたら片づけもしていただきます。美味しく食べるため、食事前に口腔体操や屋外散歩などで体も心もリセットしている。片づけは利用者それぞれが出来る事を見つけて声掛けし感謝する。 (外部評価) みなで、よもぎ等、季節の物を下処理して、干したり、茹でたり、冷凍する等、工程を大切に、楽しみながら行えるよう支援されている。調査訪問時には、寿司のごぼう削ぎをしている利用者が見られた。献立は、ユニット毎に立てており、利用者の食べられないメニューがあれば、別ユニットから分けてもらう等して対応されている。誕生会には、個別に好みを聞いており、現在は、ちらし寿司・ちんちまんま(白ご飯)・赤飯・そうめん汁・酢物が定番となっているようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、10時3時には水分補給、いつでも飲めるようにしている。食事は一人一人に応じてつぎ分けている。病気や体質や趣向にあう食事と食器の活用で完食に近い食べ方で支援する。それには日常的に個人の情報が必要となる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを確認し、本人が出来る範囲内で介助、歯ブラシの使えない方はウガイ等はして頂く。口腔内の観察などで病状の対応の出来るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
				排泄声掛けは個々に応じてこまめに誘導を心がける。排泄チェック表も活用、体調の不安、食事摂取などを考慮し生活習慣などでプライドを傷つけない支援と清潔感を支援する。
			(外部評価)	
				広いトイレに不安を感じる利用者には、少し狭い方のトイレを使っただけよう誘導されている。介助を嫌がるが、動作に不安がある場合は、少しドアを開けておき、職員が外で待機して必要があればサポートするようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
				こまめに排泄チェックし個々の状況を把握、便秘薬など医師の指示や調理の食材にも配慮。水分補給、運動、気分の転換などに配慮する。
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
				片麻痺があっても湯船に浸かってもらうよう補助具の活用をする。入浴希望時間は聞きながらそれに合った運動等と組み合わせる、入浴拒否や暴言などには2人介助もある。
			(外部評価)	
				ユニットによっては、リフトを付けており、両方の浴室を調整しながら使用している。浴室内の動きに不安がある場合、利用者と介助者双方が腰ベルトを装着して、安心して入浴できるよう支援されている。「入浴しない」と強く意思表示する方には、入浴のあり方についてご家族も一緒に話し合う場を持たれた。ご本人は「10日に1回なら」と言われ、納得して入浴されているようだ。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
				此処時に応じて座位の時間が長くないよう静養して頂く。昼間の活動やイベント参加で心身の覚醒をしたり食事や音楽で穏やかに過ごす支援をしている。



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各勤務者で確認、チェックし服薬後の症状の変化がある時は看護師に相談している。いつでも個人の服薬指示書で効能などの説明確認が出来るようにファイルに添付している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 歌やレクリエーションで個人や集団での時間を過ごす。モニタリングなどで聞いた希望や役割を活用できるように台拭きや食器運びお話しなどをして「誰かの役に立つ」事を実感してもらう。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に買い物に出かけたり見学などに同行している。地方祭りに出掛ける。自分たちの作品展を見に行くなど本人や集団での外出で支援する。	
			(外部評価) 利用者に買い物の希望があれば、職員が同行して支援されている。ご家族が勤務する店に買い物が行ったり、近所のコンビニに毎日ヨーグルトを買いに行く方にも付き添い、支援されている。散歩が好きな方で、毎日一人で事業所の周辺や、菜園、近所の神社、観音堂、敷地内地藏等を回る方がいる。ユニットごとに近所のお店に出かけて食事したり、かまぼこ板展に事業所から出展した作品を見に行ったりすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に買い物に出かけほしい物がある時は買ったりして時間を楽しんで頂く。自分で支払の出来ない方は一緒に買い物を楽しんでもらい支払などの支援をする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に連絡を取りたい利用者は状況をみながら電話を取り次ぎ会話をして頂く。家族の都合で出来ない時は散歩やコミュニケーションで気分転換して頂く支援をする。突然のギフトなどのあり喜ばれる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 壁飾りなどに季節感を感じられるよう工夫している。音楽、ラジオを流しリラックスした気分ですごして頂く。屋外にもお地藏さんやスダレの下で歌や体操を楽しむことができる。</p> <p>(外部評価) 平屋2ユニットの事業所で、玄関や物干し場、ベランダ等は屋根付きのオープンスペースで、自然の景色を眺めながら歌を歌ったりお弁当を食べたりして楽しんでいる。畳や木製のベンチが廊下や玄関に配置され、利用者は、外を眺めたり、おしゃべりしながら過ごせるようになっている。夜、ドアのガラスに写ったご自分を見て不安になる方がおり、早めにカーテンを閉めるようにしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室では自由な時間も過ごせホールでは気の合った利用者同士で過ごしたり皆と一緒に時間を過ごせる。周囲の山や自然が昔の生活を思い出させる道具であり畑作りも野菜の成長が楽しみです。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールに近い利用者の居室はのれんなどでを掛け外部との境界を示している。備え付けの家具があり家族の写真を見たり、テレビで居室で過ごす。</p> <p>(外部評価) 窓は、椅子に座っても外が見渡せるように低めに設置されている。ベッドとタンスは備え付けとなっており、収納スペースが整備されており、利用者の使い慣れた物の持ち込みはやや少な目であるが、テレビや椅子を持ち込み、お好きなテレビ番組を見て楽しむ方がおられる。居室空間づくりについては、利用者個々のご自宅でのお部屋等も参考にしながら、愛着のあるものの中で過ごせるように、ご本人やご家族と相談しながら整備に取り組みしてほしい。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 洗剤、刃物など危険な物は目の届かない場所へ収納している。トイレなど目の届かない場所にはブザーやセンサーの設置もしている。</p>	